



Shinran
850th
2023年4月12日 「同関協」慶讃法要 記念大会 & ライブ



Shinran
850th
人間を忘れない! 2023/4/12 16:00~ SHINGO★西成 with DJ FUKU ライブ
東本願寺御影堂門前・市民緑地帯/参加費無料

キンモクセイの香りが
大阪、下町、路地まで広がり、
「また、この季節がきたね!」
とオレンジ色が好きなオカンが
ココにいたら言うてるなあと
やさしくなれた中で、
コレ書いてます、まいど。

「あんなことあってん!」
「こんなことあってん、、」
と話を聞いてくれる存在が年齢性別、人種
職業問わずそばにいてくれました。
ときには、オカンがボクの面倒を見れない
ときは、隣りの家族が、向かいのオッちゃん
が、スナックやってるオバちゃんがボクに何
不自由感じさせず一緒にいてくれました。
「街づくり」は「ヒトづくり」から。
親や家族が子供を育てられなければ、街が
子供を育てる。くらいのフトコロの深い街が
地元でよかったなあホンマ。
「どうせオレなんか、、」
「どうせボクなんか、、」
が口癖だったボクが、自分みたいなヒトが
いたら大丈夫、大丈夫やで!
伝えたい。助けたい。ひとりちゃうで。
って想いを言葉紡いで歌にしました。
ボクたちが「生きる」について
向き合うことこそ、救える命が
ことも良くないことも
あると出遇いと別れから知りました。

「命」は「時間」。
「命」と言えばえらい重く感じるなら、
「時間」を大切に、です。
「時間の余裕」は「心の余裕」
につながります。
その余裕、つまり「時間」と「心」
をどう使うか?
「人間として再確認」
する時間に使いましょう!
2023年。4月。東本願寺にて。
「門前ライブ」させてもらいます。
喜怒哀楽を喜怒哀ラップにしましょう。
門も心も開放しましょう、一緒に。
失敗、挫折を知ったヒトが、いまこそ
立ち上がって声にする時です。
みなさんとお遇いできるのを
尊敬して方のお言葉をお借りして
お伝えしますと、
「うれしく、たのしく、おごそかに、」
お待ちしております、おおきに。

SHINGO★西成(昭和レコード)



SHINGO★西成

「昭和の香り」色濃く残る大阪のイルなゲット=ドヤ街「西成」・釜ヶ崎は三角公園近くの長屋で生まれ育つ。独自のHip Hop、Reggaeスタイルで、『SHINGO★西成』というジャンルを確立した。これまで幅広い客演の数々がそれを物語り、いまや大阪のフッドスターとなった。SHINGO★西成が主催した「米カンパライブ」では、炊き出し用の米を約3t集めて、すべて寄付した。2021年「昭和レコード」の看板を引き継ぎ、2022年7枚目のアルバム『独立記念日』をリリース。日本、関西、大阪、地元西成から世界に向けて魂の叫びを響かせる。

来年二〇二三年は、いよいよ宗祖御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要が本山において勤まる。「同関協」の慶讃事業として、二回の「是施陀羅」問題を考える会を開催する予定で、目下準備を進めている。それに先駆けて、二回の「是施陀羅」問題を考える会を開催した。「記念大会」の場で「同関協」としての「是施陀羅」問題に対する基本姿勢をどのように表明し、これからの方針を打ち出すのかを議論した。「記念大会」での表明が、「同関協」のみならず宗門全体に広がり、經典・聖教をもう一度学び直す契機として発信できれば幸いである。また、二〇二四年、「同関協」は発足五十周年を迎える。差別のない世界を願つて立ち上がったこの組織の五十年のあゆみを総括し、そして今後何を運動の原理として活動していくのかが、本号の編集会議でも議題としてあがつた。発足当初と比べて会員のあり方も変わってきた中で、これから「同関協」の存在意義について、様々な立場の人を交えてたずねていきた。

編集委員 浜口和也

ご意見・ご感想はこちら



<https://forms.gle/rr2NjVCPMd0BCTHe9>
『同関協だより』編集委員会では、
ご意見・ご感想を募集しています。
QRコードをスマートホンで読み取って
いただければ、フォームが開きます。

同関協だより 第65号

発行日 2022年12月31日 発行人 松尾英城
発 行 真宗大谷派同和関係寺院協議会 真宗大谷派解放運動推進本部内「同関協」事務局
〒600-8164 京都市下京区上柳町199 ☎ 075-371-9247

会費納入のお願い
(年会費5,000円)



[口座番号] (ゆうちょ) 01010-6-2770
ドウワカンケイジインキヨウギカイ
[口座名] 同和関係寺院協議会

総会報告

2022年7月20日

しんらん交流館 大谷ホール



真宗大谷派同和関係寺院協議会 会長

挨拶

松尾 英城

私にとって何故「部落差別問題」を中心課題とするかというと、部落差別問題により宗祖親鸞聖人の門徒として生きるうえで忘れてはならない「御同朋御同行」の精神に背き続け、その精神を見失つているという事実に気づかされたからです。

ただ、その気づきは自覺的なものではなく、外からの指摘、つまり、差別を受け続けてきた方々からの真の同朋教団を願う悲痛な叫びである「糾弾」による覚醒です。故に、どこか私たちの意識の底に「やられている」というおもいが、現宗門内の諸状況を見るとき、今なお消えることなく沈澱し続けているのではないかと感じます。「糾弾」を縁としたとはい、気づかされたことは事実ですから、その後の歩みは自主的・主体的であるべきでしょう。「いまも糾弾中だ」という言葉の重さを感じております。

「同関協」は、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要厳修にあたり、「あなた、人間忘れていませんか?」と共に、朋に友に生き迺いましよう!」をテーマとして掲げ、「是施陀羅」問題の解決への道筋が見出せない限り、法要が慶讃法要にならないという思いから、「是施陀羅」問題を課題として差別の克服(人間性の回復)を果たす」ということを事業方針として進めております。具体的な事業内容としては「記念大会」「奉仕団」「記念冊子発行」の三部会を立ち上げました。現在担当の部会員さんたちにより、鋭意計画が進められております。

テーマと事業に込めた願いは、差別からの解放を願求し、人間回復を志望し続けてこられた先輩たちの思いを継承した私たちの心からの叫びを凝縮した形で、宗門内外に一石を投じることです。また、それは「わたし自身の差別構造に向かうもの」でもあるのです。なぜなら私自身が、ご門徒方の前で『觀經』を読誦してきたからです。この問題をご門徒方と具体的に、どのように取り組んでいけるかともに悩み、ともに一步を踏み出したいものです。

2022年度総会議案

- 議案第一号 一〇二一年度事業報告
- 議案第二号 二〇二一年度決算書並びに監査報告
- 議案第三号 「同関協」規程の一部変更について
- 議案第四号 任期満了に伴う役員選出について
- 議案第五号 二〇二二年度事業計画(案)
- 議案第六号 二〇二二年度予算(案)



2022年7月20日、しんらん交流館大谷ホールで2022年度総会を開催した。

冒頭の松尾英城会長の挨拶は、自身の思いをより明確に伝えたいと、例年になく総会資料の中に挨拶文を掲載し、それを読み上げられる形で行われた。その中には、「同関協」として明年に控える慶讃事業に対する取り組み状況の報告があり、「是施陀羅」「宗務改革」等の課題への取り組みに対する宗務当局への願いやお尋ね、近く「同関協」50周年を迎えるにあたっての思いを話された。

宗門からは木越渉宗務総長と尾畠英和解放運動推進本部長がご臨席され、それぞれご挨拶をいただいた。木越渉宗務総長は、金沢の「真宗学院」を立ち上げられた時の思い、部落解放同盟広島県連合会元委員長の小森龍邦さんとの思い出を織り交ぜながら、松尾会長のお尋ねに少しでも応えられるように話された。

総会では深溝暁さん(九州教区)が議長に選出された。スムーズな議事進行で各議案の審議・承認がなされた。特に、議案第3号では、「第4条 会員の入会について」が別記のとおり改訂が承認され、新役員では3役(会長・副会長・会計)の留任と下記のとおりの役員があらためて選出・承認となった。

報告事項として、「同関協」の慶讃事業について「記念大会部会」「奉仕団部会」「発行部会」それぞれから現在の進捗状況が報告された。

総会終了後の学習会では、1989年の「真宗大谷派糾弾会」の映像を視聴し、忘れてはならない今の課題として共有した。

なお、残念ながら今年も総会後の懇親会は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、見送られた。

真宗大谷派同和関係寺院協議会規程の一部変更について

① 第4条 会員の入会について

〈現〉(会員)

第4条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって会員とする。

(3)真宗大谷派の僧侶であって協議会の目的に賛同し入会を希望する者。ただし、この場合は、入会届を会長に提出し、第5条第1項第1号から第5号の役員の同意を得なければならない。

2 上項第3号の同意を得た会員については、次の総会において報告するものとする。

3 会員は、第9条第2項に定める会費を納入しなければならない。



〈変更後〉(会員)

第4条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって会員とする。

(3)真宗大谷派の僧侶であって協議会の目的に賛同し入会を希望する者。

2 上項第1号から第3号の者は、入会届を会長に提出し、第5条第1項第1号から第5号の役員の同意を得なければならない。

3 上項の同意を得た会員については、次の総会において報告するものとする。

4 会員は、第9条第2項に定める会費を納入しなければならない。

監査	専門委員	常任委員	会計	副会長	会長	新役員
齊藤 淳 岡崎 淳 深溝 晴 岩尾 光 内豊 岡田 棕 田智 小幡 保 秀孝 菊池 草 野和 浜口 環 吉田 龍 上寺 審 片山 龍 三好 敬 高岡 聖 米澤 典 川端 裕 松尾 英 城	監査	専門委員	常任委員	会計	副会長	会長

2022年度 事業計画・予算

《2022年》	
7月 13日	2021年度会計監査①
15日	2021年度会計監査②
20日	2022年度総会
21日	第1回常任・専門委員会
21日	第1回法要実行委員会
8月 1日	第1回記念大会部会
日	第1回奉仕団部会
日	第1回発行部会
9月 8日	第1回『同閑協だより』第65号編集会議
日	第2回記念大会部会
日	第2回発行部会
10月 4日	第2回「是施陀羅」問題を考える奉仕団(～5日)
日	第3回記念大会部会
日	第3回発行部会
11月 2日	第2回『同閑協だより』第65号編集会議
日	第4回記念大会部会
日	第4回発行部会
12月 日	第2回奉仕団部会
日	第1回常任委員会
日	第2回法要実行委員会
13日	第3回『同閑協だより』第65号編集会議
31日	『同閑協だより』第65号発行 慶讚事業記念大会ポスター発行

《2023年》	
1月 日	第5回発行部会
日	第5回記念大会部会
2月 日	第6回発行部会
日	第6回記念大会部会
日	慶讚事業パンフレット発行
3月 日	第7回記念大会部会
日	第3回法要実行委員会
4月 12日	慶讚法要記念大会
日	第1回『同閑協だより』第66号編集会議
5月 日	第2回常任委員会
日	第2回『同閑協だより』第66号編集会議
6月 日	第5回三役会(※)
日	第2回常任・専門委員会
日	第3回『同閑協だより』第66号編集会議
30日	『同閑協だより』第66号発行
☆ 三役会 隨時	
☆ 各ブロック協議会 隨時	
☆ 各作業部会 隨時	
(*) リモート会議	

2021年度 事業報告・決算

《2021年》	
7月 5日	2020年度会計監査①
12日	2020年度会計監査②
19日	2021年度総会
20日	第1回常任・専門委員会
20日	第1回法要実行委員会
9月 8日	第2回法要実行委員会(※)
8日	第1回『同閑協だより』第63号編集会議(※)
10月 5日	第1回奉仕団部会(※)
20日	第2回奉仕団部会
20日	第2回『同閑協だより』第63号編集会議
11月 8日	第1回発行部会
15日	第3回奉仕団部会(※)
16日	第1回記念大会部会
12月 13日	第2回発行部会
13日	第1回常任委員会
13日	第3回法要実行委員会
13日	第3回『同閑協だより』第63号編集会議
31日	『同閑協だより』第63号発行
☆ 三役会 7/13・8/3・11/22・11/30・12/2(※)	
☆ 各ブロック協議会	
(*) リモート会議	

《2022年》	
1月 24日	宗務総長面会(意見書提出)
1月 31日	第4回奉仕団部会(※)
2月 18日	第5回奉仕団部会(※)
3月 8日	聞き取り調査(コロナウィルス感染予防対策により中止) 第1回「是施陀羅」問題を考える奉仕団(～9日)
4月 5日	第6回奉仕団部会(※)
11日	第4回法要実行委員会
13日	第1回『同閑協だより』第64号編集会議
5月 12日	第2回常任委員会
13日	第2回記念大会部会
24日	第2回『同閑協だより』第64号編集会議
28日	美作騒擾百五十回忌法要(～29日)
29日	小森龍邦さんを偲ぶ会
6月 13日	第2回常任・専門委員会
14日	第3回記念大会部会
23日	第3回発行部会(※)
23日	第4回記念大会部会
29日	第3回『同閑協だより』第64号編集会議
30日	『同閑協だより』第64号発行
☆ 三役会 3/28・5/6・6/7・6/16・6/23(※)	
☆ 各ブロック協議会	
(*) リモート会議	

2022年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 予算書

自 2022年7月1日 至 2023年6月30日

歳入の部 2,317,000円
歳出の部 2,317,000円

歳入

項目	歳入項目	予算額	前年度予算額	比較増減(△減)	備考
1 1	会費	600,000	600,000	0	@5,000円*120か寺
2 1	本山助成金	1,500,000	1,700,000	△200,000	
3 1	繰越金	216,104	1,552,012	△1,335,908	前年度より繰越金
4 1	雑収入	896	988	△92	銀行利息
	合計	2,317,000	3,853,000	△1,536,000	

歳出

項目	歳出項目	予算額	前年度予算額	比較増減(△減)	備考
1	会議費	1,000,000	1,800,000	△800,000	
1	総会費	300,000	600,000	△300,000	
2	会議費	700,000	1,200,000	△500,000	三役、常任、常任・専門、法要実行各委員会、会計監査
2	事業費	750,000	1,050,000	△300,000	
1	組織拡充費	250,000	250,000	0	第2回「是施陀羅」問題を考える奉仕団
2	会報費	500,000	800,000	△300,000	『同閑協だより』発行・編集会議
3	ブロック協議会費	150,000	400,000	△250,000	
1	助成費	150,000	300,000	△150,000	@50,000*3ブロック
2	聞き取り調査費	0	100,000	△100,000	
4	事務局費	210,000	390,000	△180,000	
1	事務局運営費	110,000	270,000	△160,000	
2	発送費	100,000	120,000	△20,000	
5	積立金会計回付金	150,000	150,000	0	
1	積立金会計回付金	150,000	150,000	0	2017年度より積立
6	予備費	57,000	63,000	△6,000	
1	予備費	57,000	63,000	△6,000	
	合計	2,317,000	3,853,000	△1,536,000	

2021年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 決算書

自 2021年7月1日 至 2022年6月30日

歳入の部 3,737,024円
歳出の部 3,520,920円
歳入歳出差引剰余金 216,104円

歳入

項目	歳入項目	予算額	収入額	比較増減(△増)	備考
1 1	会費	600,000	485,000	115,000	@5,000*96か寺・講読料@1,000*5
2 1	本山助成金	1,700,000	1,700,000	0	
3 1	繰越金	1,552,012	1,552,012	0	前年度より繰越金
4 1	雑収入	988	12	976	銀行利息
	合計	3,853,000	3,737,024	115,976	

歳出

項目	歳出項目	予算額	決算額	比較増減(△増)	備考
1	会議費	1,800,000	1,890,080	△90,080	
1	総会費	600,000	549,320	50,680	
2	会議費	1,200,000	1,340,760	△140,760	三役、常任、常任・専門、法要実行各委員会、会計監査
2	事業費	1,050,000	950,490	99,510	
1	組織拡充費	250,000	481,600	△231,600	第1回「是施陀羅」問題を考える奉仕団
2	会報費	800,000	468,890	331,110	『同閑協だより』発行・編集会議
3	ブロック協議会費	400,000	336,920	63,080	
1	助成費	300,000	100,440	199,560	100,000×九州・沖縄ブロック
2	聞き取り調査費	100,000	236		



▲座談の様子



▲お夕事の感話▲



慶讃法要お待ち受け

第2回「是施陀羅」問題を考える奉仕団

「同関協」慶讃事業方針 「是施陀羅」問題を課題として差別の克服（人間性の回復）を果たす



▲記念撮影

▼和敬堂玄関



松尾英城「同関協」
会長の「今回の奉仕
団は、今後の「是施陀
羅」問題の方針を決
めていく上で、非常に
重要な奉仕団になる
と思っている。今後こ
の問題をどのように
していくかが、課題と
して残していくの
ではないか。そこに、
少しでも光が見え、
また、「同関協」五十
年問題の方々と共に
して残していくの
ではないか。そこで、
ご門徒の方々と共に
していく」と述べた。

二〇二三年十月四日～五日にかけて「同関協」第二回「是施陀羅」問題を考える奉仕団を、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃事業の一環として開催した。三月の第一回奉仕団に引き続き、「同関協」元会長の片山寛隆氏を同朋会館教導に「同関協」会員十七名が出席し、一泊二日で「是施陀羅」問題を考えていった。

教団全体として「是施陀羅」問題の取り組みが、大事な課題と受け止められていないのではないか。たとえ僧侶の間で課題となつても、それだけでは意味をなさず、ご門徒と一緒になつて考え、課題を共有することが大事であり、その方法を考えなければいけない。

第一回奉仕団で『観経』を「不読」か「読誦」かの二者択一の議論ではなく、「読めない」との思いで確認・共有されてきたが、関係寺院も含め住職が差別に苦しむご門徒の前で、今までこの問題に気づかず読誦してきた経過がある。そのことをいかに表明するのか。表明したことでの門徒と溝を作るのはなく、そこから共に出発できるような土台をどのように構築し、表白するかが大事になる。ご門徒とどう手を取り合つてこの問題を構築していくかの座談会になつてほしいと課題提起された。

奉仕団部会の浜口和也チーフからは、「①『読めない』という姿勢・共通認識から、具体的にどのように『同関協』としての基本姿勢を表明するのか、②ご門徒との関わりの中で「是施陀羅」問題（『観経』）を教学的・真宗の教えとしてどう共有していくか、この二点を座談のテーマに絞つていくことを確認し、座談会はスタートした。

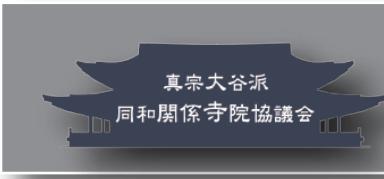
三班に分けられた座談会では、「今回の基本姿勢表明は、誰に対応してされるものなのか」「無自覚に『観経』を読んできた者として、ご門徒に対する「謝意」が示されるべきである」、「法要・儀式における読誦の方途・仏説としての教学的意義の明確化が必要なのではなかろうか」、「是施陀羅」の言葉により、差別が現在進行形で継続し、読誦により心が痛む方がおられる現状は放置できないので、一旦、不拜誦にして經典からの削除の課題も含め、教団内で広く議論すべき

だ」、「不拜誦は、『観経』の依用の停止なのか、『是施陀羅』の文言を不拜誦にするのか、関連して「観経和讃」等の取り扱いはどうするのか、「基本姿勢の表明による拜誦停止」という具体的な行動により、その目指すところを明確にしなければいけない」といった意見が出され、全体会でも議論された。

また、儀式・教学・教化の課題として、①『現代の聖典』改訂と継続学習の促進が必要、②宗派発行予定の「是施陀羅」問題に関する「教化冊子」の早期発行と使用啓発が必要、③現在の歴史認識に基づく『仏の名のものに』の改訂が必要ではないか、等が全体会で挙げられていた。

今回の奉仕団では、時間的な制限もあり、具体的な基本姿勢の表明文書作成までは至らなかった。今後、奉仕団で出たさまざま意見をベースに、法要委員会・記念大会部会等で検討・肉付けを行い、二〇二三年四月十二日に計画されている宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要の「同関協」の記念大会に合わせ、「同関協」の慶讃法要テーマである「あなた人間 忘れていませんか？」の思いも含め、「同関協」の基本姿勢の表明を出していくことが確認され、奉仕団を終えた。

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃テーマ
あなた 人間 忘れていませんか?
共に、朋に、友に生き遇いましょう



報告

美作騒擾150回忌をお勤めして

美作騒擾のことは、門徒さんとお参りで顔を合わせる中で、うちの村が焼かれたことがある、というような話を聞いていました。

はじめて聞いた時には、自分の育った地域が、襲った側ではなく、尊厳を持って抵抗し戦った側で良かったと思いました。そこで思考停止している私がいました。

当然、殺害された方に想いを馳せればそんなことは言えませんが、事件を自分の都合の良い風に受け止めることで、悲しみを悲しみとして受け止められていない私がいました。

そのことを教えてくれたのは上杉聰先生です。

美作騒擾の記録の調査に来られた時、騒擾の記録を確認後、目に涙をためて、「もう少ししたら150回忌になりますね。住職はどう勤められるのですか?」と尋ねられました。

その問い合わせ、「施主がどなたになるかわからないので、わかりません」と、自分の事として応えられなかつことを、住職を勤める者としてずっと後悔しています。

その数年後、上杉先生が追悼の道行きを始められていることをお聞きし、参加させていただくようになりました。

そこに集う人たちは、美作騒擾に想いを馳せ、悲しみ、二度と同じ過ちを繰り返さない為に歩む人たちでした。

今年、その人たちと共に150回忌法要を勤めることができました。

表白では、

150年前に起きたこの事件を、風化させることなく伝えてくださった諸先輩方の想いによりこの法要を勤めることができます。

感謝と共に、受け取った責任、伝えていく責任を強く感ずるところであります。

法要を勤めるにあたり、先達が残してくださいました。

「亡くなった者の心に十分報いることが出来たと思わない」

「死んでいた者への悲しみをどこにおいてよいのかわからない」

という想いに、どう応えていかれるのか、改めて、悲しみを悲しみとして受け止めつつ、「人を人と思わぬで傷つける過ちを二度と繰り返さないことを誓い、法要勤修の意義として確かめるものであります。

と読ませていただきました。

騒擾に想いを馳せ、向き合い続けていくことで、人を人と思わないで傷つける過ちを二度と繰り返さないこと、人と人が水平に出会える社会の顕現を目指したいと思います。

教福寺 佐々木尚文

美作騒擾を初めて知った時、私はこの史実にどう向き合っていいのかわかりませんでした。ある時「美作騒擾について学ぶ機会がありますのでどうしますか」というお説の声をかけていただき、戸惑いや不安もありましたが、騒擾に関わる現地でのフィールドワーク、研修会等に何度か参加させていただきました。そして、騒擾に想いを馳せる方々と共に現地を歩き、読経させていただきました。

改めて騒擾に起因して命を奪われた方々の手次寺の一力寺としてこの史実にどのように向き合い、受け止め、150回忌法要を勤めることができるのだろうか、そんな想いを抱えていました。

町内の方々には、美作騒擾150回忌法要のご案内として両寺院主催のもと、「美作騒擾は当時、江戸から明治への時代の変わり目の中、政府が打ち出したさまざまな施策、それに不満や不安をもつ民衆により一揆が起こされ、この地では18人の命が奪われた騒擾です」「両寺院としては、命を奪われた人に想いを馳せ、縁ある人と共に供養し、人の尊厳を奪うような悲しみを繰り返さないことを共有していく為、町内公会堂を会場とし、美作騒擾150回忌法要を執り行わせていただきます」等の

内容の回覧板を回して、ご確認していただきました。

そして当日、公会堂にて町内の方々と、騒擾に想いを馳せ歩んで来られた方々と共に、命を奪われた18人の法名軸を前に150回忌法要を勤めることができました。法要に集い、さまざまな想いを抱えながら、それでも共に一つの場所に集い会することができました。また、法要に参列された方だけでなく、今まで、そして今も騒擾のことを伝え続け、受け止め続けた方々がおられたことを忘れてはならないと思いました。そのように歩んでこちらの方々と出会い、そして町内の方々と向き合う中で、共に法要を執り行うことができ、これからも私の事として騒擾に想いを馳せて、縁ある人と共に供養し、人の尊厳を奪うような悲しみを二度と繰り返さないことをめざして歩みたいと思います。

後日、両寺院で公会堂を使用させていただき法要を執り行わせていただいたことなどに対して、改めて町内会長にご挨拶にお伺いいたしました。そして法要についての感想などをお聞きする中、ふと町内会長が仰られた「法要の写真を公会堂に飾ってはどうですか」の一言が、今も心に残っています。

教本寺 楠葉大導

小森龍邦さんを偲ぶ会 宗務総長追悼スピーチ 二〇二二年五月二十九日(日) 府中市文化センター

二〇二一年二月二十六日にご逝去された小森龍邦さんを偲ぶ会が、新型コロナの感染拡大で二度の延期を経て開催され、「同関協」の有志が参画しました。

僭越ながら、真宗大谷派木越涉宗務総長が追悼のスピーチをされましたのでここに掲載します。(編集委員 浜口和也)

小森先生、お久しぶりでございます。眞宗大谷派・東本願寺の木越でございます。実は私が先生を一番最初に拝見できたのは、今からちょうど三十三年前ですか、全推協叢書『同朋社会の顕現』差別事件をきっかけとする第一回真宗大谷派糾弾会において、これは東本願寺で行われたわけありますけれども、その当時私は三十二歳。大谷大学を卒業し、故郷に帰り、金沢真宗学院というところで教鞭をとつておりました。

父親からある日、「宗門の姿勢が問われる非常に大切な会がある」、そういうことを聞かされまして、実は父親に頼み込んでその糾弾会に行きました。本山の大きな会場で糾弾会が行われたわけですから、私は別室でその様子を拝聴しておきました。そこで、小森先生は先頭に立つて糾弾をなさっておられました。

「訓覇さん、訓覇さん」、途中で「訓覇先

生、なんでもわかるんですよ!」

後で聞いたんですけども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、といふことを聞いております。

「なんでもわからないんだ、あなたが口癖のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。「自己」とは何ぞや、それは確かに魅力的な言葉だけれど、なんでも差別問題をやっている暇がないというふうなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆生の苦悩を課題とし、その救済を望まれた、その仏が課題とすることをなぜ自らの課題にしないのか。こういう非常に鋭い問いを投げかけておられました。同時に、びっくりしたのは、そのあと、先生は言葉を繋いで「仏陀の課題を、信心の課題にする。それが信仰のあり方ではないのか」。あの質問をされながら、ほんとに応えに窮しておられる本山の人々に対して、正解を示しておられた。そういう先生の姿に、非常に大きな感動を感じました。三十二歳という若さでしたけれども、先生のまっすぐさ、厳しさ、そして誰よりも温かみを持つその人格に、大いに感動を覚ええたことは、今でも鮮明に覚えております。

ちょうど今から八年前に、私は東本願寺の責任役員・参務・解放運動推進本部長を拝命いたしまして、広島県連に赴き、「是梅陀羅」の課題について、小森先生、そして岡田副委員長、そして広島県連の方から教えを請いに行きました。

生、なんでもわかるんですよ!

後で聞いたんですけども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、といふことを聞いております。

「なんでもわからないんだ、あなたが口癖

のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。「自己」とは何ぞや、それ

は確かに魅力的な言葉だけれど、なんでも

差別問題をやっている暇がないというふ

うなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆

生の苦悩を課題とし、その救済を望まれ

た、その仏が課題とすることをなぜ自ら

の課題にしないのか。こういう非常に鋭

い問い合わせを投げかけておられました。と同時に、びっくりしたのは、そのあと、先生は言葉を繋いで「仏陀の課題を、信心の課題にする。それが信仰のあり方ではないのか」。あの質問をされながら、ほんとに応えに窮しておられる本山の人々に対して、正解を示しておられた。そういう先生の姿に、非常に大きな感動を感じました。三十二歳という若さでしたけれども、先生のまっすぐさ、厳しさ、そして誰よりも温かみを持つその人格に、大いに感動を覚ええたことは、今でも鮮明に覚えております。

こういうふうに申し上げると、先生はほんとに懐かしそうに、目を細めて笑つてくださいました。そういう先生から、やはり我々が課題としなければいけないことなども、何度も何度も本山の方に来ていただき、それを繰々聞かせていただき、そして先生には何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、これこそが信仰の課題である」ということ。これを教団あげて自覚的に取り組んでいけるようなそういう施策を待ち望んでおられました。

すぐに、「部落問題等に関する教学委員会」を立ち上げ、そこで報告書を作成し、

先生と岡田委員長に報告に行きましたと

ころ、先生は非常に喜んでくださいました。

生、なんでもわかるんですよ!

後で聞いたんですけども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、といふことを聞いております。

「なんでもわからないんだ、あなたが口癖

のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。「自己」とは何ぞや、それ

は確かに魅力的な言葉だけれど、なんでも

差別問題をやっている暇がないというふ

うなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆

生の苦悩を課題とし、その救済を望まれ

た、その仏が課題とすることをなぜ自ら

の課題にしないのか。こういう非常に鋭

い問い合わせを投げかけておられました。と同時に、びっくりしたのは、そのあと、先生は言葉を繋いで「仏陀の課題を、信心の課題にする。それが信仰のあり方ではないのか」。あの質問をされながら、ほんとに応えに窮しておられる本山の人々に対して、正解を示しておられた。そういう先生の姿に、非常に大きな感動を感じました。三十二歳という若さでしたけれども、先生のまっすぐさ、厳しさ、そして誰よりも温かみを持つその人格に、大いに感動を覚ええたことは、今でも鮮明に覚えております。

こういうふうに申し上げると、先生はほんとに懐かしそうに、目を細めて笑つてくださいました。そういう先生から、やはり我々が課題としなければいけないことなども、何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、それを繰々聞かせていただき、そして先生には何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、これこそが信仰の課題である」ということ。これを教団あげて自覚的に取り組んでいけるようなそういう施策を待ち望んでおられました。

すぐに、「部落問題等に関する教学委員会」を立ち上げ、そこで報告書を作成し、

先生と岡田委員長に報告に行きましたと

ころ、先生は非常に喜んでくださいました。

生、なんでもわかるんですよ!

後で聞いたんですけども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、といふことを聞いております。

「なんでもわからないんだ、あなたが口癖

のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。「自己」とは何ぞや、それ

は確かに魅力的な言葉だけれど、なんでも

差別問題をやっている暇がないというふ

うなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆

生の苦悩を課題とし、その救済を望まれ

た、その仏が課題とすることをなぜ自ら

の課題にしないのか。こういう非常に鋭

い問い合わせを投げかけておられました。と同時に、びっくりしたのは、そのあと、先生は言葉を繋いで「仏陀の課題を、信心の課題にする。それが信仰のあり方ではないのか」。あの質問をされながら、ほんとに応えに窮しておられる本山の人々に対して、正解を示しておられた。そういう先生の姿に、非常に大きな感動を感じました。三十二歳という若さでしたけれども、先生のまっすぐさ、厳しさ、そして誰よりも温かみを持つその人格に、大いに感動を覚ええたことは、今でも鮮明に覚えております。

こういうふうに申し上げると、先生はほんとに懐かしそうに、目を細めて笑つてくださいました。そういう先生から、やはり我々が課題としなければいけないことなども、何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、それを繰々聞かせていただき、そして先生には何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、これこそが信仰の課題である」ということ。これを教団あげて自覚的に取り組んでいけるようなそういう施策を待ち望んでおられました。

すぐに、「部落問題等に関する教学委員会」を立ち上げ、そこで報告書を作成し、

先生と岡田委員長に報告に行きましたと

ころ、先生は非常に喜んでくださいました。

生、なんでもわかるんですよ!

後で聞いたんですけども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、といふことを聞いております。

「なんでもわからないんだ、あなたが口癖

のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。「自己」とは何ぞや、それ

は確かに魅力的な言葉だけれど、なんでも

差別問題をやっている暇がないというふ

うなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆

生の苦悩を課題とし、その救済を望まれ

た、その仏が課題とすることをなぜ自ら

の課題にしないのか。こういう非常に鋭

い問い合わせを投げかけておられました。と同時に、びっくりしたのは、そのあと、先生は言葉を繋いで「仏陀の課題を、信心の課題にする。それが信仰のあり方ではないのか」。あの質問をされながら、ほんとに応えに窮しておられる本山の人々に対して、正解を示しておられた。そういう先生の姿に、非常に大きな感動を感じました。三十二歳という若さでしたけれども、先生のまっすぐさ、厳しさ、そして誰よりも温かみを持つその人格に、大いに感動を覚ええたことは、今でも鮮明に覚えております。

こういうふうに申し上げると、先生はほんとに懐かしそうに、目を細めて笑つてくださいました。そういう先生から、やはり我々が課題としなければいけないことなども、何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、それを繰々聞かせていただき、そして先生には何度も何度も何度も本山の方に来ていただき、これこそが信仰の課題である」ということ。これを教団あげて自覚的に取り組んでいけるようなそういう施策を待ち望んでおられました。

すぐに、「部落問題等に関する教学委員会」を立ち上げ、そこで報告書を作成し、

先生と岡田委員長に報告に行きましたと

ころ、先生は非常に喜んでくださいました。

生、なんでもわかるんですよ!

後で聞いたんですけども、先生と訓覇先生とは非常に深い繋がりがあった、といふことを聞いております。

「なんでもわからないんだ、あなたが口癖

のようにおっしゃる、自己の確立、自己の信

念を確立していく。「自己」とは何ぞや、それ

は確かに魅力的な言葉だけれど、なんでも

差別問題をやっている暇がないというふ

うなことが言えるのか。如来・仏陀が、衆

生の苦悩を課題とし、その救済を望まれ

た、その仏が課題とすることをなぜ自ら

の課題にしないのか。こういう非常に鋭